

二、研究の方針・計画・組織

(一) 研究の基本方針

- ① 全職員が共通理解のもとに研究・実践に取り組む。
- ② 全職員がいずれかの研究委員会に所属する。

- ③ 生徒指導に直接役立つ研究をする。

- ④ 家庭との連絡を密にし更に地域とも連携を深める。

(二) 研究計画

第一次

- ① 生徒の意識と実態把握を中心とした教育調査
- ② 調査結果の分析
- ③ 各指導研究委員会の「実践主題

- ④ 各指導研究委員会の「実践主題

表1 実践主題を設定するための問題点整理一覧

委員項目	学習指導研究委員会	進路指導研究委員会	生徒指導研究委員会	保健指導研究委員会	校外指導研究委員会
進路		○進路目標を努力不足で安易に下げ。 ○就職や進学目的意識が低い。 ○自己の能力・適性を正しく把握できず、家庭での話し合いも不十分。			○家庭学習の習慣なく生徒・父兄ともに進路の不安を抱えている。
学習	○学習の必要性の意識は高いが、実行しているのは少数。 ○正しい学習態度の欠落。				
基本的生活習慣			○基本的生活習慣の欠如	○基本的生活習慣の欠如。 ・生活時間 ・食生活 ・心身の清潔	
悩み・劣等感			○生徒自身、親(22.9%)や地域の人(56.9%)に信頼されていないと考えている者が多い。 ○喜女高生であることに「誇りをもたない」生徒が34.1%もいる。 ○他人の家庭をうらやましく思う(83.7%)者が多いが、家出との関連もあると思われる。	○性・身体上の悩み ・性と純潔感 ・身体上の悩み、欠陥	

設定と主題設定の理由及び実践事項の決定」

第二次

- 各指導研究委員会の決定事項に基づいた実践活動
- (二) 研究組織

五つの指導研究委員会を設置し、研究体制の確立を図った。

三、研究実践の概要

(一) 教育調査と問題点の抽出

指導の手懸りを得るため、生徒、保護者、地域の方々、中学校教師、中学生、喜女高の教師に対して、延べ二四七項目にわたる調査を実施した。その結果を分析し、各委員会の実践主題を

設定するために、表1、のように問題点を整理した。

四、各指導研究委員会の「実践主題」と「実践事項」の設定

各指導研究委員会では、問題解決のため前述の整理一覧をもとに「実践主題」と「実践事項」を設定した。

●(学習指導研究委員会)

(一) 実践主題

学習の必要性を感じながら実行できない生徒に、学習意欲を持たせるための指導はどのようにすべきか。

(二) 実践事項

- ① 家庭学習の励行
- ② 学習態度のこまやかな指導

●(進路指導研究委員会)

(一) 実践主題

生徒が能力と適性に応じた進路選択ができるようにするには、家庭との連携をどのように強化すべきか。

(二) 実践事項

- ① 三者懇談会の充実
- ② 進路だよりの発行

●(生徒指導研究委員会)

(一) 実践主題

集団生活における基本的生活習慣を確立させるための指導のあり方

(二) 実践事項

- (保健指導研究委員会)
- (一) 実践主題

身体的な悩みや困りごとの解決を目指す

委員項目	学習指導研究委員会	進路指導研究委員会	生徒指導研究委員会	保健指導研究委員会	校外指導研究委員会
友人・対人関係			○友人はいる(96.6%)が、学習面でのかかわり合いはない。 ○男女交際についても慎重さが足りない。		
非行			○非行の意識で、危険な傾向を示す者が少ない。(3.4%)		
家庭教育			○家庭内で礼儀作法を教える習慣なし。親子の話し合い不足。 ○悩みの相談相手に、父親(0)と先生(0.3%)が少なすぎる。	○生徒の進路その他に関する親と子の認識に差異。話し合う機会も少ない。 ○子供のしつけは家庭の役割としながら、実際には学校に頼る。	
地域・家庭との連携			○PとTが、生徒指導面で実質的な協力をすべきである。	○中高連携の不足 学校の現状を知らず、進路その他、子供の現状や将来に不安。教師と父兄の対話連絡不十分。 ○地域の方が、本校の生徒指導の成果があまり上っていない(39.1%)と見ておられる点。	
教師の対応	○学校生活に失望し、落胆している生徒が過半数に達し(55.3%)理由の第1に学習面をあげている。 ○勉強していない生徒をいかに進んで学習させるか。		○規律の認識、教師と格差。再検討の時期か。 ○高校生活への期待は健全。実現の方策が問題。	○家庭の機能の低下と家庭謹慎。 ○登校が苦痛(88.1%)の生徒は、学校に問題があるようである。	